

社会科 単元の指導と評価の計画

尾道市立重井中学校

教諭 國廣 朋也

1 対象 中学校第3学年

2 単元名 第3章 現代の民主政治と社会

<単元の概要>

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）社会〔公民的分野〕内容 C 私たちと政治（2）民主政治と政治参加を踏まえて設定している。この中項目では、国会を中心とする我が国の政治の仕組みのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解できるようにする。また、住民自治を基本とした地方自治の基本的な考え方を理解できるようにするとともに、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにする。

本単元について学習指導要領（平成29年告示）解説社会編では、法や政治に関する内容の学習において、単に法が規定している内容や政治制度についての理解で終わることなく、なぜそのような規定があるのか、その規定を設けた基本的な考え方や意義を理解できるようにしたり、なぜ現在このような制度が設けられているのか、その制度を成り立たせている基本的な考え方や意義を中心に理解できるようにしたりすることが大切であると述べられている。また、政治に関する様々な事象や課題を捉え、考察、構想する際の概念的な枠組みとして対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目したり関連付けたりして、政治に関する様々な事象などを理解できるようにしたり、合意形成や社会参画を視野に入れながら、政治に関する課題の解決に向けて多面的・多角的に考察、構想できるようにしたりすることが求められている。

単元の終末に、「どのような社会を作るべきか。15歳の私たちが考えるよりよい（幸福な）社会の実現に向けた提言」というテーマで議会におけるスピーチをパフォーマンス課題として設定し、生徒に自ら理想とする社会をイメージし、その実現のための具体的な課題を明らかにし、解決のための具体案を提案させることとした。この学習活動に取り組むことを通して、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目し考察できるようになることを目標とする。

生徒の学習改善を促すツールとして「学習まとめシート」を目標の共有場面や小単元毎の自己評価やまとめの場面で活用する。

3 内容のまとめ

〔公民的分野〕C 私たちと政治（2）民主政治と政治参加

4 単元の目標

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

- ・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、国民の権利を守り社会の秩序を維持するために、法に基づく公正

な裁判の保障があること、地方自治の基本的な考え方について理解する。

- ・民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。 ・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。 ・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 ・地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

6 課題と採点の基準等

以下は、「思考・判断・表現」の観点の評価するパフォーマンス課題と生徒のスピーチ例である。このパフォーマンス課題は、第一次から第五次を総括した課題として実施するため、単元の導入部分である第一次に単元の評価規準と合わせて提示する。

課題	(国会/地方) 議員が、民主政治の在り方について若者に意見を求めました。重井中学校に依頼があり、生徒が議会(国会/地方議会)で以下のタイトルでスピーチすることになりました。そこで、スピーチで用いる資料を作ります。あなたは、どのような内容の資料を作成しますか。 「どのような社会を作るべきか。15歳の私たちが考えるよりよい(幸福な)社会の実現に向けた提言」
採点の基準	現代の社会や政治(または身近な地域社会や政治)に関する具体的な課題を挙げ、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目し考察し、学んだ知識を基に課題を解決するような提言となっているか。 「[おおむね満足できる]状況(B)と判断する基準」 次の2点を満たしている ・現代の社会や政治または身近な地域社会や地域の政治に関する具体的な課

	題を挙げ、学んだ知識を基に課題を解決するような提言となっている。 ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目し考察している。
「おおむね満足できる状況」と判断する生徒のスピーチの例	[国会におけるスピーチ原稿] 私が考える「よりよい幸福な社会」とは、誰もが意見を述べやすく、全世代の意見を反映した社会の実現である。個人の意見を多く取り入れることが、社会全体の幸福量の増加につながるからだ。そのために、公職選挙法を改正しインターネット投票の実現を提案する。 現在、選挙における投票率の低下や若者の政治的無関心が課題になっている。民主主義とは、自分たちの社会のことは自分たちで決めることである。中学生の私たちからすれば、多くの人々が投票や意見表明など政治参加しないことに、疑問が残る。今のままでは、元々人口比率が高く、かつ選挙での投票率も高い高齢者層の意見のみが反映されるシルバー民主主義がますます加速する。こうした状況において、政治家の皆さんが、若者向けの政策や演説よりも高齢者向けの政策や演説を重視するのは、当然だ。ただ、こうした状況は、本当に国民の民意を反映した公正な政治といえるのか。 そこで私は、法改正によるインターネット投票の実現を提案する。現在の公職選挙法では、インターネットによる選挙運動は認められているが、インターネットによる投票は認められていない。ただ、私たち若者だけでなく現代社会においてスマートフォンは、もはやライフアイテムとなっている。スマートフォンによる投票を可能にすれば、どこでもすぐに投票することができるので、必ず投票率は上がる。また、立候補者は、SNSなどの活用について、これまで以上に若者向けのメッセージを工夫しなければならない。若者向けのメッセージが増えれば、若者がSNS上で意見交換を活発にしたり、ハッシュタグを用いて政策に関する情報を集めたりして、若者の政治や選挙への関心が高まるだろう。SNSでのコミュニケーションが得意な若者によって、新たな世論形成の場が作られるだろう。さらに、投票に係わる費用の面でも、電子処理することができるので、投票日の人員や投票用紙の印刷や運搬に関わる費用を削減することができ効率的である。 しかし、インターネット投票を実施することの課題はたくさんある。例えば、選挙の基本原則である直接選挙や秘密選挙の原則が守られるのか、これらに関連したプライバシーやセキュリティの問題、ハッキングによるデータへのアクセス、改ざんなどが想定される。対策としては、本人確認のための顔認証やパスワード設定などを組み合わせ、何重にもセキュリティを強化することで解決できる。何よりも現代の社会においては、あらゆる社会生活の場面で本人の直接手続きや本人確認が必要な契約や決済は、すでにインターネットを使ってなされている。賛成や反対の様々な意見から合意を見だし、社会の課題を解決していくことが政治の役割だと思うので、議員の皆さんには国会での熟議を通して、よりよい社会の実現を目指してもらいたい。

	最後に、私が中学生としてできることは、このような議会だけでなく、市民生活の様々な場で、よりよい社会の実現に向けた意見を表明することである。このことが私ができる政治参加である。ご清聴ありがとうございました。
--	--

7 指導と評価

(1) 知識・技能

「知識・技能」については、民主政治と政治参加に関する理解について評価する。内容については、選挙や政治参加、国会、内閣、裁判所、地方自治などボリュームがあり、使用される専門用語も多い。しかし、ここで求められる理解すべき内容は、単に用語自体を暗記することや用語の意味を正確に覚えることではなく、各小単元で取り扱われる題材の基本的な仕組みや原理である。この理解のためには、事実的な知識のみならず概念的な知識を理解し、現代の社会的事象等において生きて働く知識として身に付けなければならない。この単元に関する知識の理解を深めるために、既習事項と関連付けたり、共通点や相違点を見いだしたり、比較したりさせながら理解を促す。例えば、「衆議院と参議院の共通点と相違点は」や地方自治の理解を深めるために「国政の仕組みと比較するとどのような点が異なるか」などに着目させることが有効である。

「指導に生かす評価」では、この単元で生徒が何を理解することが求められているかを整理するため、各次において中単元の目標と評価規準をその都度共有し、求められている知識や視点を再確認させる。生徒の振り返りや小テストから生徒の知識事項の理解が浅いと見取った場合は、学習方略に関するフィードバックや用語の意味理解だけでなく、それぞれの制度のつながりや仕組み、特徴、メリットやデメリットなどに着目させるための追加の発問をするなどの手立てが必要となる。このような、指導、助言を行った上で次末にワークシートや「学習まとめシート」等を用いて「記録に残す評価」を行う。

(2) 思考・判断・表現

「記録に残す評価」については、パフォーマンス課題のスピーチにおいて、「現代社会の見方・考え方」など、「社会的な見方・考え方」を働かせ、習得した知識及び技能を活用しながら考察、構想し、表現できているかを評価する。

「指導に生かす評価」については、パフォーマンス課題のスピーチに向けての考察や構想に当たって、「対立と合意」、「効率と公正」、「個人の尊重と法の支配」、「民主主義」などに着目しているかどうかを見取る。そのために、第一次から第五次の中で、これらの視点を意識した問いや主題などの学習課題を設定している。なお、生徒がこれらの概念に着目していない場合、既習事項の対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などの視点を予めいくつか明示した上で振り返らせたり、適切な批評や追加の発問をするなどして考察する際に着目できるよう必要な指導や助言を行ったりする。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

「記録に残す評価」については、民主政治と政治参加に関する学習に対して、自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組み、民主政治や政治参加の重要性から、主体的に社会に関わろうとする態度について評価する。このうち、「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」については、各小単元で記録した「学習まとめシート」を用いて、生徒自身が、単元の目標に照らして各小単元の位置付け及び評価規準に対する到達度を把握し、中項目全体の目標の実現に向けて、政

治に関する情報を自ら収集し、それらを学んだ知識と統合したり関連付けたりする過程で抱いた政治的な事象についての素朴な疑問に対する解決策などについて、自ら現代社会の見方・考え方を働かせ考察しようとしているかを評価する。「主体的に社会に関わろうとする態度」については、主に単元のまとめとして行う第六次のパフォーマンス課題において評価する。生徒が身近に感じることができる問い、実際の社会を意識したパフォーマンス課題に取り組み、その課題に取り組む態度と課題における記述の内容について評価する。

「指導に生かす評価」は、「学習まとめシート」に書かれた記述において、友達や教師からのコメントから他者視点を通して考えを深めたり広げたりしているかを見取る。この「学習まとめシート」には、他者の意見を記述する欄があり、その意見に対して自分の意見の変化や考えの深まりを記述する欄がある。さらに、当該生徒の記述から教師が学習内容に対する見方や考え方を示唆する形で、学習改善を促すコメントを記述する欄も設けている。このような他者視点を通して、考えの広がりや深まりを実感させ、生徒の学習改善を図る。

8 単元計画

(1) 単元の指導計画（全 20 時間）

- 【第一次】単元の導入・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2 時間）
- 【第二次】「現代の民主政治」・・・・・・・・・・（3 時間）
- 【第三次】「国の政治の仕組み（国会と内閣）」・・・・・・・・・・（4 時間）
- 【第四次】「国の政治の仕組み（裁判所）」・・・・・・・・・・（4 時間）
- 【第五次】「地方自治と私たち」・・・・・・・・・・（4 時間）
- 【第六次】単元のまとめ・・・・・・・・・・（3 時間）

(2) 単元における問いの構造

【第一次の問い（単元を貫く問い）】

よりよい社会や幸福な社会の実現のために、最終的に決定する権力をもっている国民として 15 歳の私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。

【第二次の問い】

民主政治において、よりよい社会や幸福な社会の実現のために、私たちはどのように情報を入手し、判断して、行動するべきだろうか。

【第三次の問い】

社会の課題となっている「インバウンド」や「空家問題」、「多様性への理解」を解決するために、主権者である私たちはどのように国の政治に関わっていくのがよいだろうか。

【第四次の問い】

公正な裁判とは、どのような裁判か。

【第五次の問い】

よりよい尾道市にするために、尾道市議会議員補欠模擬選挙で、誰に投票したらよいだろうか。

【第六次・パフォーマンス課題】

（国会/地方）議員が、民主政治の在り方について若者に意見を求めました。重井中学校に依頼があり、生徒が議会（国会/地方議会）で以下のタイトルでスピーチすることになりました。そこで、スピーチで用いる資料を作ります。あなたは、どのような内容の資料を作成しますか。「どの

ような社会を作るべきか。15歳の私たちが考えるよりよい（幸福な）社会の実現に向けた提言」

※「単元」に係わる表記については、表中に以下のように示す。

■→ねらい/・→学習活動

次（○時間）→小単元

第一次～第六次（全20時間）→中単元（中項目：内容のまとまり）

【次・時】	各時間のねらい（■） 主な学習活動（・）	○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価 （ ）評価方法	形成的評価の実践上のポイント
【単元の導入 第一次（2時間）】	【第一次のねらい】「単元を貫く問い」について思いや願い、疑問などを出し合うなど対話的な活動を通して、この問いに対する答えを予想したり、この問いの解決に役立ちそうな情報を挙げたりするなど、課題解決への見通しをもつことができる。		
	【第一次の問い】よりよい社会や幸福な社会の実現のために、最終的に決定する権力をもっている国民として15歳の私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。（2時間） キーワード：よりよい社会、民主政治、民主主義、民意、世論、個人の尊重		
	■評価規準を満たす要素について理解する。 ・モニターに示された2人の生徒の思考を比較し、どちらの思考が評価規準を満たしているか考える。 問 ・次の事例の中のA君とB君の思考の違いは、どんなところだろう。 ＜モニターに示された生徒A・Bの思考＞ 仮想C国では、投票が義務化されているので投票率が100%に近いというニュースを見て、生徒Aは単純な感想レベル、生徒B（おおむね満足な生徒）は見方・考え方を働かせて考察している。		③評価規準を理解させるための発問の設定。学習の見通し、ゴールイメージをもたせるために単元の目標及び単元の評価規準を文字だけでなく、視覚的にスライドで示し、ゴールの具体的な姿をイメージさせる（政治的な話題や政治的な現代の諸事象について根拠なく語る生徒や感想レベルの生徒と学んだ知識を基に現代社会の見方・考え方を働かせて語る生徒を対比的に示す）。

■「単元を貫く問い」について解決への見通しをもつ。 ・思いや願い、疑問などを出し合うなど対話的な活動を通して、この問いに対する答えを予想したり、この問いの解決に役立ちそうな情報を挙げたりする。 問 ・よりよい社会や幸福な社会とはどのような社会か、それを実現するための手段として政治参加の仕方にはどのようなものがあるか。 ■対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目し、模範例の内容と評価規準とのつながりを理解する。 ・パフォーマンス課題とその模範となるスピーチの例を読み、模範例の内容と評価規準とのつながりを考える。 問 ・模範例の内容について、知っている事実（知識）は何か。（該当箇所に下線を引く。） ・模範例のどのような記述に見方・考え方が働いているか。（読み取れる箇所に波線を引く。）	○主(ワークシート・「学習まとめシート」) ○思(ワークシート・「学習まとめシート」)	④他の生徒から疑問点や批評を受けるなど、他者視点を取り入れることで多面的・多角的に考察するための学習の調整を行うよう指導する。 ⑤選挙に関する漠然とした感想でもよいが、今後の学習の見通しをもつために「単元を貫く問い」についての考えを広げることが目的なので、今後の展開を想定して既習事項の対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などの視点（現代社会の見方・考え方）に着目させるため、例えば、「公正な社会や公正な選挙とは、どのようなものか」といった追加の発問をする。 ⑤適切な箇所に下線や波線を引くことができていない生徒に、「なぜそこに引いたのか」や「他の人と比較して考察結果を交流してみよう」など、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目できるよう適切な批評や追加の発問をする。
---	---	--

	■選挙の意義や現状について理解する。 選挙に関する資料などを読み取る。	○知(ワークシート・「学習まとめシート」)	⑤「選挙区の人口比や年齢別の人口比などに起因する民意の反映をどのように捉えるか」、「少数者の民意の反映はどうすればよいか」、また、「〇〇さんのいう効率や公正とは具体的にどのようなことを指すのか」などの適切な批評や追加の発問をする。
	問 - 国政選挙の投票率の推移やH29年10月総選挙の年齢別投票率を見て、これらは民意を反映しているか。 - なぜ若者の投票率が低いのだろう。 - なぜ「1票の格差」が問題になるのだろう。		
【第二次(3時間)】	【第二次のねらい】選挙や政党など、様々な人の意見をまとめ、課題を解決するためにはどのような仕組みが整えられているかを理解し、民主政治の推進には公正な世論の形成が必要なことについて考察することができる。		
	【第二次の問い】民主政治において、よりよい社会や幸福な社会の実現のために、私たちはどのように情報を入手し、判断して、行動すべきだろうか。(3時間) キーワード：選挙、小選挙区制、比例代表制、政党、世論、メディアリテラシー		
	■間接民主制や公正な選挙の在り方や仕組みについて理解する。 身近で具体的な事例から、民主政治の在り方や公正な決め方について考察する。	○知(ワークシート・「学習まとめシート」)	③「学習まとめシート」の評価規準を共有する。 ⑤ワークシートや「学習まとめシート」に一つの視点しか書けていない生徒に対し、様々な視点で考察させるために振り返りの視点を与える。例えば、「少数政党だったら、大政党だったらなどの複数の立場で振り返ってみよう」、「クラスの他の人の視点や指摘はどういう点で参考になるか」や「既習事項の対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などの視点で考えてみよう」と適切な批評や追加の発問をする。
	問 - 公正な決め方とはどのような決め方か(多数決と決選投票はどちらが公正な決め方か)。 - 明治期の選挙法は公正な内容だろうか。 - 小選挙区制、大選挙区制、比例代表制の違いは何か。 - ドント方式とは、どのような仕組みか。 - 直接民主制と間接民主制の違いは何か。		

■第二次の知識に関わる疑問点について、意味調べや既習事項との関連付け、素朴な疑問の解消をする。 ・用語、語句についての意味調べ。 ・第二次の中で発見した素朴な疑問について深掘りする。 ・小テストに取り組む。	○知(ワークシート・小テスト・「学習まとめシート」) ◎主(ワークシート・「学習まとめシート」)	⑤制度を表す用語の意味理解だけでなく、それぞれの制度のつながりや仕組み、特徴、メリットやデメリットなどに着目させるため、例えば、「教科書にはどのように説明してあるかな」、「思考ツールを使って〇〇と〇〇の特徴や違いについて教科書を基にまとめてみよう」など学習方略に関するフィードバックをする。また、「死票の取り扱いから小選挙区制と比例代表制の違いを説明してみよう」などの追加の発問をする。
■よりよい社会や幸福な社会の実現のために、15歳の私たちはどのように政策や政党に関する情報を入手し、どのように判断して、どのように行動するべきかを考察する。 ・公正な世論を形成するために、政党の政策に関する情報をインターネットで収集する。 ・実際にパブリックコメントや陳情をするとしたら、インターネットを用いて情報を収集する。	○思(ワークシート・「学習まとめシート」)	③「学習まとめシート」の評価基準を共有する。 ⑤ワークシートや「学習まとめシート」に内容を伴わず、単に知識としての言葉を羅列しているだけの生徒に対して、現代社会の見方・考え方が働くよう「公正とはどのような考え方だったか」、「なぜ個人の尊重が大切なのか」、「民主主義では何がポイントだったか」、「少数派の意見はどうすれば反映できるか」などの既習事項の対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などの視点(現代社会の見方・考え方)に着目させるため適切な批評や追加の発問をする。
問 ・どうすれば個人の意見は尊重(反映)されるか。 ・メディアリテラシーを身に付けるにはどうすればよいか。 ・SNSは、民主主義にとって有効なツールか。 ■中単元のゴールと小単元で学んだことを関連付ける。	◎知(ワークシート・ペーパーテスト・「学習	④他の生徒から疑問点や批評を受けるなど、他者視点を取り

	・「学習のまとめシート」で第二次のまとめをする。 問 ・第二次の知識がパフォーマンス課題を考える上でどのような点で活かすことができるか、参考になるか。 ・なぜ国民の政治参加が大切なのか。	まとめシート)	入れることで、学んだ知識の定着を図る。 ⑤ワークシートや「学習まとめシート」の記述の内容が浅い生徒に、「具体的に書こう」、「学んだ知識を活用してみよう」や「世論の中に自分は含まれるのか」、「民主主義の意義は何か」など適切な批評や追加の発問をする。
【第三次（4時間）】	【第三次のねらい】「住宅宿泊事業法（民泊新法）」や「LGBT理解増進法」の成立やその後の取組を例に、主権者である国民が直接選んだ代表者で構成される国会や、国会の信任に基づき成立する内閣の仕組みと役割を理解させ、私たちがどのように政治に参加していくべきか、対話的な活動を通して考察、構想することができる。		
	【第三次の問い】社会の課題となっている「インバウンド」や「空家問題」、「多様性への理解」を解決するために、主権者である私たちはどのように国の政治に関わっていくのがよいだろうか。（4時間） キーワード：法の支配、三権分立（権力分立）、国会、二院制、衆議院の優越、内閣、議院内閣制、行政権の拡大		
	■権力分立や三権分立、法の支配が、特定の者への権力集中や権力の乱用を防止し、国民の自由や権利を守る上で大切なものであることを理解する。 ・架空の事例について対話的活動を通して考察する。 問 ・3年〇組が無人島に漂流しました。救助がいつになるかは分かりません。あなたは、そこでリーダーです。クラス全員の命と安全を守るためにどのように統治をしますか。 ・人による支配をするべきか、法による支配をするべきか。	○主(ワークシート・「学習まとめシート」)	③「学習まとめシート」の評価基準を共有する。 ⑤漠然と考察させるのではなく、統治の在り方を理解させるために既習事項の対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などの視点（現代社会の見方・考え方）に着目させ（気付かせる）、「どうすることがクラス全員の命と安全、幸福につながるか」や、「みんなの考え方は現代社会の見方・考え方のどのような点と重なるか」などの追加の発問をし、生徒の思考を深める。

・どのようなルールを決めるか。 ・どのようにルールを実行するか。 ・揉めごと（対立）が起きた場合、どのように対処するか。 ・なぜ三権分立のように権力を分ける必要があるのか（権力が集中していたらどうなるか）。		
■法律を制定する意義を理解する。 ・現実社会の諸事象を通して、課題解決のために国会と内閣の仕組みや国会と内閣の働きが人々や社会に与える影響について考察する。 問 ・社会の課題を解決するために提案された法律「住宅宿泊事業法（民泊新法）」や「LGBT理解増進法」の目的は何か、どのような手続きを経て成立したのか。 ・社会の課題を解決するために提案された法律「住宅宿泊事業法（民泊新法）」や「LGBT理解増進法」について国や地方の行政機関は、どのような役割を果たしているか。	○思（ワークシート・「学習まとめシート」）	⑤法律の内容よりも立法と行政の役割の違いに着目させるよう「国会議員の仕事と官公庁公務員の仕事の違いは」や法律の影響を国民目線で考察させるために「法律によって国民の生活にどのような影響や変化があるか」などの追加の発問をする。
■国会と内閣の関係を理解する。 ・教科書や資料を基に問いについて考察する。 問 ・なぜ日本の議会は二院制なのか、衆議院と参議院の違いは何か。	○知（ワークシート・「学習まとめシート」）	③「学習まとめシート」の評価基準を共有する。 ⑤国会と内閣の仕組みについて、民主政治を支える国民という観点で「国民がどのように関与しているか」、また議院内閣制について、「大統領制と比較してみよう」、「どのよう

	・なぜ衆議院の優越が憲法で認められているのか。 ・議院内閣制とは、どのような仕組みか。 ・内閣が総辞職するのはどのような場合か。 ・行政の肥大化とはどのようなことを指すのか。 ・内閣提出法案と議員提出法案の成立率の違いは何を意味するのか。		にして互いに権力を抑制し均衡を保っているか」などの追加の発問をする。
	■第三次の知識に関わる疑問点について、意味調べや既習事項との関連付け、素朴な疑問の解消をする。 ・用語、語句についての意味調べ。 ・第三次の中で発見した素朴な疑問について深掘りする。 ・小テストに取り組む。 ■中単元のゴールと小単元で学んだことを関連付ける。 ・「学習のまとめシート」で第三次のまとめをする。	○知(ワークシート・小テスト・「学習まとめシート」) ◎主(ワークシート・「学習まとめシート」) ◎知(ワークシート・ペーパーテスト・「学習まとめシート」)	⑤単に言葉や用語を覚えるのではなく、用語が示す内容や仕組みを理解するよう伝える。例えば、国会と内閣、衆議院と参議院の共通点や相違点などについて、それぞれの機能や役割に着目して説明させる。情報の整理が苦手な生徒には、思考ツールなどを用いて整理させる。 ③「学習まとめシート」の評価規準を見ながら第三次の振り返りをする。 ④他の生徒から疑問点や批評を受けるなど、他者視点を取り入れることで、学んだ知識の定着を図る。 ⑤ワークシートや「学習まとめシート」の記述の内容が浅い生徒に、「具体的に書こう」、「学んだ知識を活用してみよう」などの助言をしたり、例えば「15歳の中学生」の立場を選択した場合には「主権者として国の政治にどのように関
	問 ・第三次の知識がパフォーマンス課題を考える上でどのような点で活かすことができるか、参考になるか。 ・あなたは「15歳の中学生」または「経済産業大臣でもある与党の衆議院議員」または「野党の参議院議員」または「経済産業省の国家官僚」のいずれかで		

	す。社会の課題に対し、「〇〇法」という法律を新たに成立させたい場合、どのような手段がありますか。それぞれの立場で考えてみましょう。		わたることができるだろうか」などの適切な批評や追加の発問をしたりする。
【第四次（4時間）】	【第四次のねらい】模擬刑事裁判を基に、裁判で法などを根拠に公正に判断することの重要性について理解を深めさせ、法の支配の重要性や司法への参加の意義について考察することができる。		
	【第四次の問い】公正な裁判とは、どのような裁判か。（4時間） キーワード：三審制、司法権の独立、民事裁判、刑事裁判、裁判員制度、違憲審査権、国民審査		
	■裁判の仕組みについて理解する。 ・裁判所の違いや裁判の種類の違いについて調べる。 ・どのような裁判があるのかインターネットで情報を収集する。	○知(ワークシート・「学習まとめシート」)	⑤裁判の目的や公正な司法の重要性を理解するため「権力が集中していたらどのような裁判になるのか」や「えん罪を起こさない仕組みはどのようなものか」、「憲法に違反した法律が成立した時にはどうすればよいか」などの追加の発問をする。
	問 ・なぜ司法権の独立が憲法で保障されているのか。 ・なぜ三審制がとられているのか。 ・公正な裁判とはどのような裁判か。		
	■裁判員制度の仕組みを理解する。 ・模擬裁判を通して、裁判員制度の意義を考察する。	○思(ワークシート・「学習まとめシート」)	③「学習まとめシート」の評価基準を共有する。 ⑤模擬刑事裁判について、「裁判官、検察官、弁護士それぞれの立場で、何を根拠に有罪・無罪としたのか、量刑を考えたのか、それぞれの主張から何を根拠に考察したか」などの既習事項の対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などの視点（現代社
	問 ・裁判員になったら、どのように有罪・無罪を決定し、量刑を決めたらよいだろうか。 ・なぜ裁判員制度が導入されたのか。 ・なぜ被害者参加制度が整えら		

	れたのか。 ・ 私たちが裁判員として裁判に参加することは、どのような意味があるだろうか。 ・ 死刑は残虐な刑罰にあたるか。 ■ 第四次の知識に関わる疑問点について、意味調べや既習事項との関連付け、素朴な疑問の解消をする。 ・ 用語、語句についての意味調べ。 ・ 第四次の中で発見した素朴な疑問について深掘りする。 ・ 小テストに取り組む。 ■ 中単元のゴールと小単元で学んだことを関連付ける。 ・ 「学習のまとめシート」で第四次のまとめをする。 問 ・ 第四次の知識がパフォーマンス課題を考える上でどのような点で活かすことができるか、参考になるか。 ・ なぜ公正な裁判でなければならないのか。	○知（ワークシート・小テスト・「学習まとめシート」） ◎主（ワークシート・「学習まとめシート」） ◎知（ワークシート・ペーパーテスト・「学習まとめシート」）	会の見方・考え方）に着目するよう適切な批評や追加の発問をする。 ⑤単に言葉や用語を覚えるのではなく、用語が示す内容や仕組みを理解するよう伝える。例えば、民事裁判と刑事裁判の相違点などについて、裁判の仕組みや手続きに着目して説明させる。情報の整理が苦手な生徒には、思考ツールなどを用いて整理させる。 ③「学習まとめシート」の評価基準を見ながら第四次の振り返りをする。 ④他の生徒から疑問点や批評を受けるなど、他者視点を取り入れることで、学んだ知識の定着を図る。 ⑤ワークシートや「学習まとめシート」の記述の内容が浅い生徒に、「具体的に書こう」、「学んだ知識を活用してみよう」、「裁判に関わる様々な人の立場で考えてみよう」や「不当な裁判や裁判における不正とはどのようなことだろうか」など適切な批評や追加の発問をする。
	【第五次のねらい】 地方自治についての理解を深めさせるとともに、尾道市〇〇町をよりよい地域にしていくために、どのように地方自治に関わり、課題を解決していくべきか、考察することができる。		

【第五次（4時間）】	【第五次の問い】よりよい尾道市にするために、尾道市議会議員補欠模擬選挙で、誰に投票したらよいだろうか。（4時間） キーワード：地方公共団体、地方自治、条例、首長、直接請求権、地方財政		
	■地方自治の仕組みや意義について、国政との比較を通して理解する。 ・地方自治（地方政治）と国政の仕組みの違いを二代表制の特徴を基に考察する。 問 ・地方自治とはどのような考えに基づいて行われているか。 ・なぜ地方自治では、住民の直接請求権が認められているのか。 ・地方財政の特徴とはどのようなものか。 ・なぜ東京都は、地方税収が多いのか。 ・なぜ地方財政の歳入では国への依存財源が多いのか。 ・地方公共団体が、自主財源を増やすにはどうすればよいか。 （人口増加、合併、ふるさと納税）	○知（ワークシート・「学習まとめシート」）	⑤地方自治において、「住民参加による住民自治とは具体的にどのようなものか」、「団体自治とは、具体的にどのようなものか」、国政との比較（国会や内閣の仕組み）を通して理解させるため、「教科書や前時のワークシートを見返してみよう」と助言したり「法律と条例の違いは何か」など対比的に理解させるよう追加の発問をしたりする。
	■模擬選挙の候補者として地域の課題解決策を考え、地方自治の意義について理解する。 ・どのような条例や課題解決のための地域の取組があるのかインターネットで情報を収集する。 ・身近な地域の課題（町内レベル、生活圏）や住民の願いの実現のために自ら政策やその実現に向けたプランを考え、それらをプレゼンテーションする。	○思（ワークシート・「学習まとめシート」） ○主（ワークシート・「学習まとめシート」）	③「学習まとめシート」の評価基準を共有する。 ④他の生徒から疑問点や批評を受けるなど、他者視点を取り入れることで、学んだ知識の定着を図る。 ⑤身近な地域に着目させるため、「具体的な政策として、「誰のために何をどう変える、作る」というという視点で考えてみよう」や課題設定の場面

	・グループで解決策をそれぞれプレゼンテーションし、一人に投票する。その際、投票理由についても共有する。 問 ・身近な地域の課題にはどのようなものがあるか、どうすれば地域の課題を解決できるか、その手段は（制度面、内容面、財政面）。 ・幸福な地域を作り上げるために、どのような条例が必要か。 ■第五次の知識に関わる疑問点について、意味調べや既習事項との関連付け、素朴な疑問の解消をする。 ・用語、語句についての意味調べ。 ・第五次の中で発見した素朴な疑問について深掘りする。 ・小テストに取り組む。 ■中単元のゴールと小単元で学んだことを関連付ける。 ・「学習のまとめシート」で第五次のまとめをする。 問 ・第五次の知識がパフォーマンス課題を考える上でどのような点で活かすことができるか、参考になるか。 ・中学生ができる住民参加とはどのようなことか。	○知（ワークシート・小テスト・「学習まとめシート」） ◎主（ワークシート・「学習まとめシート」） ◎知（ワークシート・ペーパーテスト・「学習まとめシート」）	では、「現実と実現させたい理想とのギャップについて意識してみよう」、また、政策の理由や根拠について、現代社会の見方・考え方を働かせた内容となるよう方向性として「公正な政策か、合意に向けた政策を提案しているか、効率的な提案か、個人や少数の意見にも配慮した提案となっているか」などの適切な批評や追加の発問をする。 ⑤単に言葉や用語を覚えるのではなく、用語が示す内容や仕組みを理解するよう伝える。例えば、二元代表制や直接請求権の内容などについて、それぞれの機能や住民の政治参加に着目して説明させる。情報の整理が苦手な生徒には、思考ツールなどを用いて整理させる。 ⑤ワークシートや「学習まとめシート」の記述の内容が浅い生徒に、「具体的に書こう」、「学んだ知識を活用してみよう」、「住民参加はどうあるべきか」、「どのような地域の在り方が望ましいか」など適切な批評や追加の発問をする。
--	--	---	---

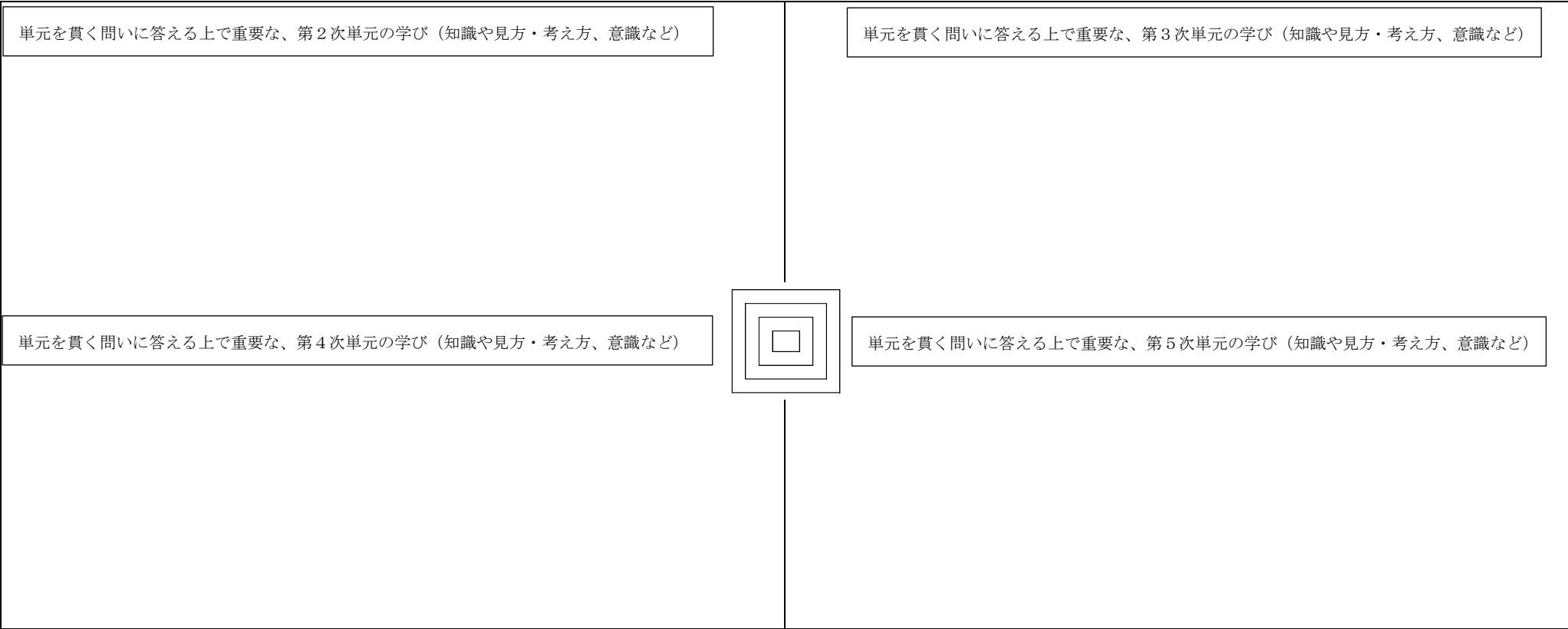
【第六次（3時間）】	【第六次のねらい】これまでに学んだ知識を活用したり、統合したりしながらパフォーマンス課題に取り組み、解決策を提案することができる。（3時間）		
	【第六次の問い】（国会/地方）議員が、民主政治の在り方について若者に意見を求めました。重井中学校に依頼があり、生徒が議会（国会/地方議会）で以下のタイトルでスピーチすることになりました。そこで、スピーチで用いる資料を作ります。あなたは、どのような内容の資料を作成しますか。「どのような社会を作るべきか。15歳の私たちが考えるよりよい（幸福な）社会の実現に向けた提言」（3時間）		
	■パフォーマンス課題の条件を理解する。 ・パフォーマンス課題とループブリックを再確認する。 ・模範例を再度読み返し、第一次時点と第五次時点の自分の感想や理解の変化について話し合う。 ・条件や成果物を作成するための不明点を解消する。 ■パフォーマンス課題における具体的な課題を自ら設定する。 ・よりよい社会や幸福な社会について具体的に想定する。 ・課題設定のための情報を収集する。 ■自ら設定した課題の解決策を考察・構想する。 ・自ら設定した課題に対する解決策を学んだ知識を使って考察・構想する。 ・自ら設定した課題を解決するための情報を収集する。 問 ・自ら作成した成果物のどのような点に見方・考え方が働いているか。（読み取れるまたは見取れる箇所に波線を引く。）	◎思(ワークシート・「学習まとめシート」)	③「学習まとめシート」の評価基準を共有する。 ⑤内容面に関して、これまで学んだ単元の知識を活用したり、現代社会の見方・考え方を働かせたり、多面的・多角的に考察したりするよう働きかける。学習方略に関して、これまでの単元で習得した情報収集の力を活用し、課題設定や課題解決のための情報を収集し、整理するよう働きかける。

	■相互評価によって課題に関する理解を深める。 ・作成した成果物について他者と交流する。その際、ルーブリックに照らして相互評価をする。 ・他者からのフィードバックを受け、修正や改善を図り最終成果物とする。 ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返り、新たな問い（課題）を見出したり、次の単元（経済分野など）で追究したりする。	◎主(ワークシート・「学習まとめシート」)	④ルーブリックを用いて生徒による相互評価をさせる際、気付きや更なる疑問点を含め、やり取りをさせる。ルーブリックにある「対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して考察しているか」について、「なぜそのように考察したのか」という視点で話し合いを行い、相互評価をさせる。評価の適切さよりも理解の深まりを重視する。
--	--	------------------------------	--

□ 政治の領域の学習を通して身に付ける力

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。 ・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。 ・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 ・地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

□ 単元を貫く問い：「どのような社会を作るべきか。15歳の私たちが考えるよりよい（幸福な）社会の実現に向けた提言」に向けた第2次～5次単元のまとめ



第2次 小単元を貫く問い:「民主政治において、よりよい社会や幸福な社会の実現のために、私たちはどのように情報を入手し、判断して、行動するべきだろうか。」

小単元を貫く問いに対する答え

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。 ・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。 ・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 ・地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

日付	①：めあて	②：①に対するまとめ	③：小単元を貫く問いに答える上で、大切な知識や見方・考え方、意識など	④：②や③に対する他者からのアドバイスや疑問など	⑤：④に対する自分自身の気づきや考えの深まりなど	⑥：②～⑤を踏まえた教師からのアドバイスや疑問など
例	政治に参加することには、どのような意味や価値があるのだろうか？	政治に参加することは、世の中に対する自分の考えや思いを投票や立候補という形で表現し、社会をよりよくしていく価値がある。	政治参加には、立候補や投票などの方法以外に陳情や地方自治での直接請求があることが分かった。社会の課題に対し対立をこえて合意形成するために代表者を選ぶ。	18 才になったら選挙に行けるけど、今 15 才の自分達にはどんな政治参加の仕方ができるのか？	18 才になったときに選挙で自分の考えをもって投票できるように、インターネットなどで批判的思考を基に情報を収集し政治に関心をもつ。	今のうちから政治に関心をもって過ごすことは大事ですね。また、15 才にできる政治参加には、どのようなものがありますか？
／						
／						
／						
／						